

近衛師團監督部臨時報告

明治廿八年八月廿九日
彰化

近衛師團監督部長代理 辻村楠造
野戰監督長官 野田密通殿

經理給養報告

第一師團ハ八月二十八日ヲ以テ彰化ニ入り目下師團本隊ハ

彰化ニ河村枝隊ハ鹿港ニ在リ

第二彰化ニ於テハ戰鬪アリ敵ノ死傷亦多カリシニモ拘ハラズ

地方調辨ノ結果良好ニシテ糧米ハ日々師團ヲ養フニ

足ル独リ大麦ハ皆無ニシテ玄米豆類ヲ代用スルノ止ム

ヲ得サルモノアリ然レバ運送品ハ不足ナカラ若干ヲ有シ

大麦三升玄米一升ノ割合ヲ以テ給養シ得タリ

三十一
醬油モ亦若干土地ニ就テ調辨シ得タリ黑砂糖ヲ添ヘ

0225

テ給與セリ然レ氏資源ハ薄クシテ多量ヲ得ル能ハス故
ニ醬油ハ目下給養品中第一必要品トナレリ

第三彰化及鹿港トモ台北、比ニアラス兵營官衙モ完全ナ
リシ戸障子、机、椅子類モ存在セリ故ニ入舎ニ便ヲ得
タリ然レ氏彰化ハ目下兵ヲ入ル、建物不足ヲ告ケタリ此後
高木後方守備隊来ラハ更ニ狹隘ヲ感スルニ至ラン鹿
港ハ一二本部事務室、外ハ官衙兵營等ニ入ルヲ得
タリ

第四彰化以北、土民人夫ハ大ニ望ミノ属スヘキモノアリ目下
大ニ兵站線路ノ運搬力ヲ助ケツ、アリ彰化以南ハ未タ
詳ナラサルモ今迄ノ經驗ニ依レハ望ミナキニアラス
第五、後港以南師團ノ前進ニ就テハ專ラ地方ノ物資ニ
依レリ且師團監督部ハ兵站路上ノ事務ヲ操レリ其

大甲以南ニ於ケル給養ノ如キハ大ニ配慮ニ堪ヘサリシ速
カナル前進ト経路上大河ノ横ハルトハ大ニ各部隊ノ尽
カト奔走ヲ煩ハシタリ一舉ニテ彰化ニ入リシハ實ニ給養
官ノ効大ナリト云フヘシ

第六、彰化ニ於テモ亦兌換紙幣ノ使用ハ望ミナキモノ、如シ
第七、詳報ハ更ニ發セントス

三十二

近衛師團監督部報告 第八號

0228

近衛師團監督部報告 第八号

明治廿八年九月一日

近衛師團監督部長代理 辻村楠造

野戦監督長官野田豁通殿

經理給養報告

第一、本報告ハ八月十八日ヨリ同三十一日ニ至ルマデニ係ルモノトス

此間ニ於テ師團ハ八月二十二日ヲ以テ後淹ヲ發シ大甲ヨリ

ハ左右兩縱隊及第一第二擧團トナリ彰化ニ向ヒ八月

二十八日ヲ以テ彰化及其附近ノ敵ヲ擊攘シ彰化ニ入

レリ

敵ハ遠ク南方ニ退走セリ

第二、目下師團本隊ハ彰化ニ川村枝隊ハ鹿港ニ又追撃

騎兵大隊及其援護隊ハ北斗附近ニアリ

一、後滝ヨリ大甲ニ至ルマテノ實況

第三、山根枝隊ハ八月二十日ヲ以テ苗栗ヲ發シ二十一日ヲ以テ大甲ニ入レリ

師團司令部ハ廿二日後滝發廿三日大甲ニ川村枝隊其他諸部隊モ亦引続キ大甲ニ入レリ

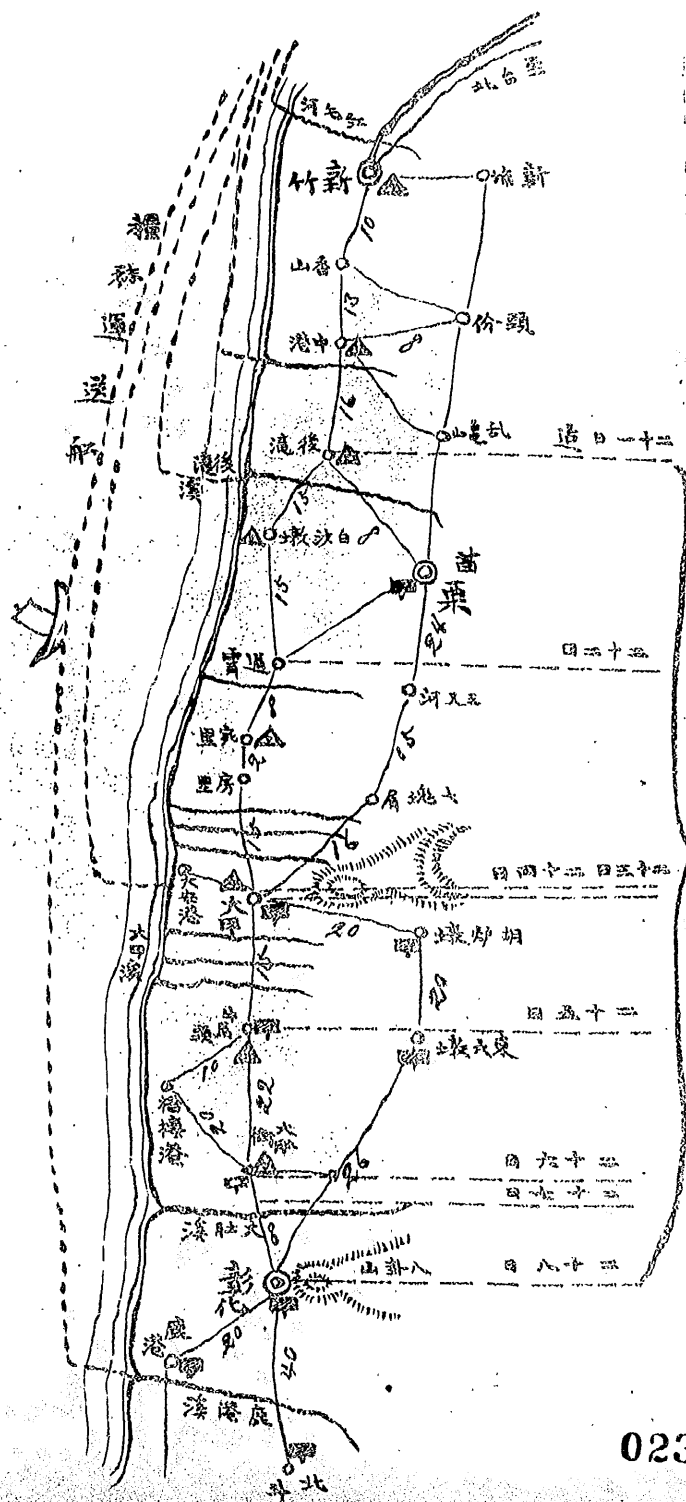
第四、後滝、通霄、大甲ニハ該地先看隊ト共ニ糧餉官ヲ派シ野戰倉庫ヲ開設セシメタリ故ニ給養ハ總テ倉庫給養ヲ用ヒタリシ

然レ氏山根枝隊ハ大甲ニ出テ初メテ倉庫給養ニ依リシ其苗栗ヲ發シクル日ト其翌日及翌々日(二十日二十一日及二十二日)ノ為メニハ土民縦列、各人携帶及大行李駄馬ヲ以テ糧秣ヲ携行シタリシ

第五、山根枝隊ノ大甲ニ出ツル為メニハ實ニ師團監督部ノ計

北

西洋数字ハ清里トス（六里ハ凡我一里ニ当）
 由師團ノ諸隊
 九月一日ノ概位置
 ▲兵站司令部



後港彰化師團司令部ノ概位置

0231

第五山根

携行シタ

ハニハ土民

苗栗ヲ禁

然レ氏山

ヲ用ヒタ

野戦倉

第四後港

諸部

師團司

甲ニ入

第三山根

區及處置ヲ要シタルモノ多カリシ當時山根枝隊苗粟出發
前ノ狀況ハ實ニ左ノ如クナリシ

一 山根枝隊ハ二十日苗粟發賣ニ十二日ヲ以テ大甲ニ入ル豫定ト
ス

二 後港以南大甲迄兵站司令部ハ一個ノミ設ケ得ルノミ
然レトモ同部ノ運搬力ハ用エキモノナシ

三 師團今後ニ於ケル給養上ノ便ヲ計レハ可成多クノ
糧秣ヲ南方ニ送付スルヲ利益トス而シテ山根枝隊
大甲ニ出ツレハ同地ヘ向ケ運搬力ノ續ク限り送付ス
ニキモノナリ

實ニ師團ハ自力ヲ以テ大甲マテ糧秣ヲ運搬セサルヘカラス
且今後ノ便ヲ慮レハ大甲ニハ最モ速カニ多クノ糧秣ヲ集
ムルヲ要ス而シテ其蒐集ハ追送ト地方調弁ヲ以テスルノ

外ナトス故ニ之ヲ為ル大甲ニハ先行隊ト共ニ糧餉官ヲ
 派遣シ調布セシメ又後滝大甲間ハ最モ多クノ運搬力
 ヲ得サルヘカラス
 依テ意見具申ノ末各縦列ヲ次ノ如ク配置シ其先行縦
 列ハ三十一日(山根枝隊豫定到着日ノ前日)ヲ以テ大甲ニ入
 ルコトナレリ

選 隊 員 令	担 任 縦 列
後滝 白汝隊	間 第三糧食縦列ト第二砲兵彈藥縦列(補助)
白汝隊 通霄	間 第一糧食縦列ト第一砲兵彈藥縦列(補助)
通霄 房里	間 第二糧食縦列
房里 大甲	間 第一第二砲兵彈藥縦列代用臨時第四糧食縦列

此各縦列ノ運搬力ハ山根枝隊ト既ニ前日未通霄ニ在
 ル川村枝隊ヲ養ヒ得ルニ過キス故ニ土民縦列編成ノ為メ

特ニ加藤二等軍吏及新宮一等書記ヲ先發セシメタリ且
此兩人ニハ別ニ大安港へ糧食船着シタル時ノ處置ニ係ル
任務ヲ与ヘタリ

加藤軍吏ノ一行ハ八月十九日ヲ以テ後滿ヲ發シ行ク行人
夫ヲ募集セリ白沙墩ニ於テハ好結果ヲ得ザリシモ通霄
大甲間ニ於テハ大ニ募リ得ルノ見込アリ且大安港陸揚ノ
準備ヲ了シ大ニ效果ヲ見ルニ至レリ其二十一日迄ニ大甲ニ
集リシ糧食ハ實ニ山根枝隊所要糧秣ノ三倍以上ニ昇
リシ

右ノ計畫及處置ハ專ラ我師團監督部之ヲ担任シ白沙
墩ニハ十九日宛里ニハ二十日ヲ以テ兵站司令部ヲ置キシモ
其運搬ハ依然師團ノ各縦列ト加藤軍吏ノ編成シタル
土民縦列ヲ以テ行ヒシ而シテ此間糧秣ノ受渡ハ白沙

塹ニ於テハ同兵站司令部通霄ニテハ野戰倉庫房里
ニテハ經列相互ニ行ヒシ

以上ノ實行ハ八月二十一日迄続行シ二十二日以降ハ師團輜
重ノ運搬區域ハ宛里大甲間トナレリ爰ニ於テ第二糧
食經列ハ宛里ニ移リ白沙墩及後瀆ニ在リシ第二茅
三糧食經列及第一第二砲兵彈藥經列ハ彈藥ヲ運搬
シテ大甲ニ入レリ

以上ハ計畫ニ依リタル實況トス其計畫ハ爰ニ畧ス

第六、山根枝隊ノ苗栗ヲ蔽スルヤ該地守備隊トシテ步
兵一大隊之ニ代レリ而シテ此大隊ノ糧秣ハ該隊行李
駝馬ヲ以テ後瀆ニ就テ受領スルコトナセリ

二、大甲ヨリ彰化ニ至ルマテノ實況

第七、師團司令部ハ八月二十三日ヲ以テ大甲ニ入レリ

大甲ニ於テ軍隊區令ハ右縦隊左縦隊第一梯團第二梯
團トナリ彰化ニ向フコトナリ師團司令部ハ第一梯團中
ニ在リテ八月廿五日大甲ヲ拔セリ而メ左縦隊、胡炉墩、
東大墩（旧台湾府）通り其他ハ牛馬頭大肚街通リトス
八月二十六日及二十七日大肚溪右岸ニ於テ左右縦隊及
兩梯團共合セリ而メ輜重兩梯隊ハ大肚街追進メリ
八月二十八日師團ハ大肚溪左岸及彰化八卦山等ノ敵ヲ
撃攘シ彰化ニ入レリ當日夕及廿九日ハ大雨ニシテ後方追
送ノ状況ニ大ニ顧慮ヲ要シタリ

第八、以下右經過中ノ實況ヲ述ベシトス

甲、大甲ニ於ケル實況

第九、初メ大甲ニ於テハ師團所要糧食品ノ四割分ヲ貯フルニ
アラサレハ南進ノ途ニ上ボル能ハス而メ此糧食ハ大安港廻

送船及陸路追送ヲ以テ充クス計畫ナリシ然ルモ大甲ニ着
スル中天候ハ船ノ廻航ヲ許サズ加之何日ニ至テ廻航セラル
ヘキカ豫想スル能ハス且陸送ハ運搬力均一セズ實ニ徒
日子ヲ空過スルノ觀アリシ一大甲以南彰化迄、給養計畫モ亦意
見具申ヲナシタルモノアルモ爰ニ之ヲ畧ス

第十、大甲ニ入り来ルヘキ糧食品ノ状況如此而ノ幾日ヲ待テハ
南進シ得ヘキカ豫定スル能ハス特ニ大甲附近ニ於ケル地
方調弁ハ充分ナル效果ヲ得ズ就中糧米ノ如キハ幸フ
シテ僅ニ一日二十二三石ヲ得ルニ過キサリシ如クノ場合ニ於
テ徒ラニ大甲ニ駐留シ一朝降雨ニ際會セハ後方ノ追送
絶ヘ且前方ニモ進ム能ハサルニ至リ唯大甲一休ノ狭地區
ニ於テ調弁セサルヘカラサルニ至ラハ給養ノ困難實ニ知ルヘキ
ナリ之レ大甲ノ前後即チ南北ニハ當時水涸ルモ大河ノ

横ハルアリテ一旦降雨トナレハ渡渉スヘカラサルノ患アレハナリ
茲ニ於テ大甲以南師團ノ前進ニ関スル給養上ノ計画ハ変
改セサルヘカラサルニ至レリ

第十一、変改スヘキ給養計画ノ何タルヲ問ハス給養官ヲ先行
セシメ各隊ノ調弁ニ任スルヲ得策トス故ニ各分担ヲ定メ先
行官ヲ派遣セリ即右縦隊ニ青木二等軍吏書記二名
左縦隊ニ金子三等軍吏及書記二名又別ニ牛馬頭ニ加
藤一等書記及波多野二等書記大肚街ニ刈谷三等軍吏
及根東一等書記トス其任務ハ縦隊附ノ青木及金子軍吏
ハ該縦隊ノ為メ糧秣調弁ニ任シ且携行糧秣ノ使用ヲ
割配スルニ在リ刈谷軍吏及加藤書記ノ一行ハ各任務地
ニ留マリ糧秣調弁ト人夫募集ヲ任トス而メ各官ハ八
月廿四日朝ヲ以テ大甲ヲ出發シ右或ハ左縦隊ト共ニ前

進セリ

第十二、八月廿四日ハ實ニ紀念スヘキ日ナリシ蓋シ進ムモ駐マルモ全
ク給養ノ一点ノミニアレハナリ更ニ當時ノ状況ヲ速レハ實ニ次
ノ如クナリシ

一、大甲附近ニ於ケル地方調弁ハ大ニ望ミナシ

二、大安港ヘノ廻船ハ当分見込ナシ

三、陸送ノ糧秣ハ豫定ノ如クアラズ且追送ノ配合乱レテ

適當ニ師團ヲ養フ能ハス

四、地方調弁ト追送品ヲ以テスレハ日々師團ヲ給養セ
得ルモ南進ニ對スル餘裕ハ殆シト有セズ又言セハ師
團ハ實ニ其日暮シナリ

後適ヨリ僅少ノ時間ヲ以テ廻送セラルヘキ大安港ノ着船ハ
實ニ一週日前ヨリ試ミテ果サズ且天候変リテ当分見込ナシ

トノ情報ハ實ニ一驚ヲ喫シタリト云フヘシ

此時給養ニ関スル意見ハ次ノ如ク開申セリ

一 師團大甲ニ駐マリ一朝降雨ニ際シ後方追送ノ道
絶ユルニ至ラハ給養ハ頗ル困難ナリ之レ大甲ハ前後
即南北共ニ大河ヲ扣ヘ河水漲溢スルニ至ラハ大甲一
休ノ小地区ニ於テ調弁セサルヘカラス特ニ目下ハ豫定ニ
向ヒ逐日兵ハ大甲ニ到着シツアレハナリ

二 然レハ師團ハ數團トナリ前進セハ前項ノ如キ場合ニ際
會スルモ廣地域ニ散在シアルヲ以テ給養ハ前項ニ比
シ稍便ナリ之レ廣キ地区ニ於テ調弁シ得レハナリ

三 糧食綴列ハ二十五日ハ牛馬頭ニ運搬シ一大甲ニハ素
ヨリ運搬スヘキ糧食品ナシ只爲シ能フモノニ運搬
二十六日ハ正午牛馬頭ニ駐マリ同日大甲ヨリ兵站綴

列ニテ運搬シ来ル糧食品ヲ受継キ前進スルコト一大
甲ニハ運搬スヘキ糧秣少キモ宛里ニハ集マリアリ故ニ二
十五日ハ之ヲ大甲ニ取寄セ二十六日本項ノ如ク受継クモノ
トス

四現在、糧食品ハ可成前送ヲカム

五地方調弁ハ專ラ之ヲカメ補給ヲナスコト

六以上ノ計画ハ給養上危険ナリト雖モ亦實行サレ

難キニアラズ只天候如何ヲ憂慮スルノミ而シテ彰化
ニ入ラハ必ス給養品ヲ得ン給養ヲ完フセンコトニ就

テハ我部員ヲシテ奮テ之ヲ尽サシメントス

議ハ前進スルコトニ決セラレタリ而シテ師團本隊ハ二梯團トナリ

一日ヲ差シテ前進シ師團司令部ハ第一梯團ノ先頭ニ在

リテ八月二十五日大甲ヲ發セリ

第十三、左右縦隊及西標團ノ大甲ヲ發スルニ臨ミ携行シタル糧
食品ハ實ニ次ノ如クナリシ

左右縦隊、土民人夫一日令大行李一日令各人携帶一日令
計三日令

第一第二標團、大行李一日令

右ノ外各人携帶口糧二日令ヲ有ス而メ左右縦隊ハ四日間西
標團ハ三日間ヲ以テ彰化ニ入ル豫定ナリシニ依リ携帶口
糧ヲ除ケハ左右縦隊ハ一日令兩標團ハ二日令ハ必ス地方
調弁ニ依ラサルヘカラス

出發ニ先シ數島參謀長ハ此前進ニ就テハ給養ノ欠乏
ハ忍ハサルヘカラス止ムヲ得スハ所謂玄米ヲ食セサルヘカラス
ル決心アルヘキヲ一般ニ示サレタリ

給養上ノ狀況如斯困難アリ且前進ハ爲シ能フモ給養

上ニ於テハ危險ト云ハサルヘカラス此用難ト危險ハ給養
官ノ動作如何ニ依テ救済シ得ヘシ實ニ名譽ノ場裡ニ
馳驅セントス快ナリト云フヘシ各部負軍吏及書記ハ此
給養ヲ完フセシコトヲ欲セリ

ヒ、牛馬頭及大肚街ニ於ケル実況

第十四、八月二十五日師團司令部ハ第一梯團ト共ニ牛馬頭ニ進
メリ

第十五、牛馬頭ニ於ケル調弁ハ好結果ヲ得タリ大行李積載
用ノ糧秣ハ其終前方ニ持行クコトナレリ

初メ大甲ヲ設スルニ臨ミ木下二等軍吏(糧餉部長代理)及齊
藤二等軍吏ハ梯團ニ先シテ牛馬頭ニ向ヘリ而シテ木下軍吏
ハ更ニ梧棲港ニ到リ調弁ニ任シタリシ

第十六、梧棲港ハ臺北以來聞ク所ニシテ商業繁盛ナル市街

ニシテ先行官ノ一行既ニ調査シ二十四日夜ヲ以テ十六石余ヲ
得ルノ手筈調ヒ居リシ此糧米ハ二十五日正午前後迄ニ集
メ得タリ又牛馬頭ニ於テ十六石余ヲ得タリシ水下軍吏ハ
梧棲ニ於テ尚ホ多クノ精米ヲ調弁シ且馬糧代用玄米ヲモ
調弁シ歸レリ

第十八、然レ氏馬糧ハ全然玄米ヲ代用スルノ不利ナルト精米モ
亦昼食一食分ハ内地米ノ必要ナルヲ思フトニ依リ縦列ヲ以
テ運搬セシムル爲メ特ニ加藤二等軍吏ハ大甲ニ暫時居残
リ之レヲ實行ニ任シタリ且後藤二等書記ハ之レヲ爲メ一
日間大甲ニ残留セシメタリ

第十八、師團司令部ハ牛馬頭ニ着シタルハ午前十時前ニ在リ着
スルヤ否ヤ先行シタル斎藤軍吏ハ牛馬頭ニ於ケル調弁ハ
好結果ヲ得タルヲ報シ大ニ安心シタリシ實ニ地方調弁

ヲ以テ充シタル倉庫給養ヲ行ヒ得タルハ各官ノ尽力大ナリ
ト云フベシ參謀官亦大ニ喜ヘリ

又左衛隊ハ胡炉墩ニ於テ二日合ノ調弁ヲ爲シ得タリト
ノ報ニ接セリ

第十九、牛馬頭兵站司令官ハ師團司令部ト共ニ牛馬頭ニ
着セリ

第二十、八月二十六日師團司令部ハ大肚街ニ同二十七日大肚溪
右岸ニ進メリ

第二十一、牛馬頭ヲ蔽フルニ臨ミ加藤及波多野書記ハ尚一日
間同所ニ残留セシメ木下軍吏ハ更ニ又梧棲港ニ到リ調
弁ニ任シタリ之レヲ爲メ請求シテ騎兵十名ヲ同軍吏ニ附
属セシメタリ又斎藤軍吏ハ昨日ニ同シク先行セシメタリ
第二十二、加藤軍吏ハ亦暫時牛馬頭ニ残留シ土民縱列ヲ編

成シ牛馬頭ニ於テ調弁シタル糧米等ノ運搬ニ任シタリ同軍吏
ニハ傳騎二名ヲ附シ其実況ヲ迅速ニ報告セシメタリ蓋シ当
時牛馬頭ニ於テハ人心惶々トシテ人夫ヲ雇ヒ得ルコト容易
ナラサルノ懸念アリ加之大肚街ハ寒村ニシテ糧食ノ調弁
困難ナリトノ報ニ接シ實ニ牛馬頭ニ於ケル土民人夫ノ結
果ハ大肚街ニ於ケル給養ニ大關係ヲ有スレハナリ

第三十三、右等諸種ノ報告ニ接セサルモ先行シタル齊藤軍吏
ノ調査ト後方ノ状況判断トニ依リ給養ハ又好結果ヲ得
ルノ見込確立セリ故ニ昨日ニ同シタ倉庫給養トシ只右
縱隊ハ各人携帯ノ糧米ヲ用ユヘキコトニ意見具申セリ而
シテ二十七日モ高同一倉庫給養ヲ行ヒシ

第三十四、加藤軍吏ノ尽力ニ依ル牛馬頭ノ土民縦列木下軍吏ノ
調弁ニ依ル格接ノ結果モ共ニ良好ニシテ二十六日午後ニ

至テ續々着セリ又師團糧食綴列モ午後五時ヨリ翌二十
七日未明ニ至ル間ニ於テ着セリ

第二十五、二十七日ハ梧棲ノ商人約テ述ハス糧米及野菜類ヲ
納メ来リ信々好結果ヲ得彰化ハ各部隊共大行李糧
秣ヲ携ヘテ入ルヲ得且師團ノ三糧食綴列ハ充實シタルマ、
彰化ニ前進シ得ルハ見込確實トナレリ加之人夫編制ノ綴
列ハ事故者多ク運搬力ハ減少シテ轉戦間ハ一綴列ノ運
搬力百ヲ得ルニモ尚困難ナリシ然レモ彰化ニ入ルノ當日ハ土
民ヲ以テ補ヒ各綴列共師團ヲ養フニ要スル百七十宛ノ運
搬力ヲ得ルニ至レリ

第二十六、大甲ヲ棄スルニ當リ採リタル給養上ノ狀況ハ既ニ述
ル如ク危険ナルニモ拘ラス以上ノ好果ヲ結ビ各部隊トモ大行
李糧秣ヲ携ヘテ彰化ニ入ルコトヲ得且糧食綴列モ亦師

團ヲ養ヒ得ル運搬力ヲ以テ彰化ニ進ミ得ルニ至リシハ偏ニ
各官ノ尽力ニ依ル処ニシテ亦實ニ快ナリシ

第二十七、大甲牛馬頭ノ残留者ハ二十七日迄ニ帰任セリ大肚街
ニハ二十七日ヲ以テ兵站司令部ヲ開設セリ

丙、彰化ニ於ケル實況

第二十八、師團ハ八月二十八日ヲ以テ彰化ニ入レリ敵情及目下ノ位
置ハ既ニ述ヘタリ（第一條ニ項）

第二十九、彰化ニ進入スルヤ糧餉官及師團監督部員ハ調弁
ニ着手セリ市街各所ニハ死屍横ハリテ人民安堵セズ商品
ノ見ルヘキモノナシ然レモ先ヅ日々我師團ヲ養フノ糧米ヲ得ル
ノ見込立テリ素ヨリ馬糧タルノ大麥ハ皆無ナルヲ以テ追送
ナキハ止ムヲ得ス玄米ヲ以テ代用スルノ外ナシトス

第三十、彰化進入當日ハ縱列給養ヲ行ヘリ而シテ大行李積載

ノ糧秣ヲ用ヒ、茲ニ始メテ大甲以來粗糲ナル土地米ニ代フルニ
内地米ノ美味ヲ與フルコトヲ得タリ蓋シ大行李ノ糧米ハ内
地米ニシテ途中ノ調弁好結果ヲ得使用セサリシニ依ル賜
ナリト云フヘシ

第三十一、廿八日征列ハ直ニ彰化ニ招致セリ而メ廿九日以降ハ各征列共大肚街ニ倉営シ
大肚街彰化間ノ運搬ニ任事シ且各征列共運搬力ノ最下限ヲ百七十トセリ

第三十二、彰化ニハ進入ト共ニ野戰倉庫ヲ開設シ二十九日後ハ
倉庫給養ヲ行ヒツ、アリ

第三十三、右征隊ハ二十八日彰化ニ入ルヤ更ニ鹿港占領ノ任ヲ
負ヘリ加藤一等書記ヲシテ之ニ属セシメタリ

第三十四、二十八日騎兵大隊ハ敵ヲ追撃シテ北斗^{四十万令一}斗六門^{斗六門}方向ニ
進ミ步兵半大隊之レガ援護タリ二十九日更ニ步兵二個中
隊ヲ増加セリ金子軍吏ヲシテ之ニ属セシメタリ

第三十五、二十八日彰化ニ入リシ午後ハ天候変リ夜ニ入リ大雨トナレ

リ後方追送ハ頼ムヘカラス大肚溪ノ架橋モ直クニ流サレタリ

地方調弁ハ更ニカヲ用キサルヘカラス二十九日モ亦同シク降雨

トス故ニ地方調弁ノミニ松ルノ外ナキニ至レリ故ニ二十九日醬

油モ亦不味ナル豆油ヲ買收シ之ニ砂糖ヲ添ヘテ給典セリ

第三十六、彰化ニ入ルヤ台灣総督ヨリ訓令アリ其中ニ休養ヲ

カムヘキノ項アリ休養ニ関シ給典上ニ干係スル事項寡シト

セス一、兵舎厩舎及陣営具、二、給養、三、被服、四、衛生ニ係

ル意見ヲ定メ上申シ置ケリ即チ次ノ如シ

休養ニ就テ意見上申

明治三十八年八月三十一日
彰化

師團当地滞在中ハ總督ノ御訓令ニ有之休養ヲ計

ラサルヘカラス就テハ兵舎厩舎等給典上ニ関スル要件別

紙ノ通り一般ニ御達相成候様致度

右ノ内兵舎ニ就テハ人民ノ住家ヲ用ヒ候テハ衛生上害ナシト
モ計リ難キ場合ニ於テハ若干急造廠舎ヲ仮設致度
見込ニテ目下夫々調査中ニ有之候

給養ニ就テハ各部隊員軍吏及書記ヲシテ精々滋養具
調弁方ニ奔走致居候得共目下尙後方追送ノ道
整頓不致特ニ海運ハ暴風ノ豫報アリテ当分ニ松
ノ見込無之ニ付尙兩三日間ハ土地米ヲ用エル外魚
之就テハ各部隊ニ於テモ副食物ノ調弁ニ就テハ一
層注意致シ粗糲米ノ欠点ハ副食物ノ撰擇ヲ以
テ補ヒ候様致度

然レ氏各個調弁ハ衛生上ヲ顧慮シタル良糧食品ヲ得
ル能ハス且大ニ右等調弁ノ困難ヲ来タシ加之價格ノ
不廉ヲ致スノ患アリ轉戦間止ムヲ得サルノ策トシテ用

タル分隊如キ小部隊ノ自炊ハ自然各個調弁ヲ求メ
木楷榘トモ可相成手ト被存候ニ付炊爨禁ハ總テ成
規ニ依リ調弁ハ責任アル經理官等ニ於テ行ヒ各個
調弁ハ嚴禁相成候様致度

市場ノ開設ハ目下ノ急務ニ有之特ニ警戒上各城
門ノ通行ヲ許サル片ハ城内人民等亦給養ニ困却シ
就中野菜類ハ最モ得難ク相成候ニ付警戒ノ許ス
限リハ右等商人ニ限リ城門ノ通行ヲ許ス且市場開
設ニ為致度尤モ市場開設ニ就テハ當地總理等ハ
夫々談合中ニ有之候

師團運動間各宿舎地ニ殘シ置キ兵站部ハ追送方
依頼ニ置候外套追送毛布等モ此際至急取寄セ度
尤モ兵站線路上ハ糧秣ノ運搬ニ忙敷容易ニ運

ヒ兼候事ト被存候得共各部隊ニ於テモ夫々此送
セントスル兵站司令部へ照會シ便宜ヲ得次第取寄セ
候様致度目下ノ処ニテハ第一外套、追送毛布、第二
夏服類ヲ順序ヲ以テ取寄セ候事適當ト被存候尚
兵站監督部へハ當部ヨリ右ニ関シ照會可致見込ニ
有之候

衛生上ニ就テハ高師團軍医部長ノ見込モ可有之候
得共兵舎ニ連帶スルモノ若干別紙ニ附記致置候

右意見上申候也

兵舎厩舎及陣營具

第一、兵舎ハカメテ官衙寺院等ヲ用キ民舎ヲ避クヘシ止ムヲ得スミテ民舎ヲ用ユルハ可成住民ト離隔セシムルコトヲ計ルヘシ

第二、厩舎ハ空舎若クハ樹ニ陰ヲ以テ應用スヘシ

材料ヲ得ルニ從ヒ一頭ニ付五尺ニ九尺ノ割合ヲ以テ急造厩舎ヲ仮設スルコトヲ得

但專ラ竹材及藁ヲ用ヒ費用ヲ節スヘシ

第三、兵舎及厩舎ニ用ヒタルモノハ勿論其他ノ建物ト雖トモ妄リニ模様替ヲ爲シ或ハ窓風入等ヲ穿ワヘカラス

第四、用水ハ在来ノ井水等ヲ以テ應用スヘシ

第五、浴湯ハ風呂桶ノ着スルマデハ水浴トス但桶靴

類ヲ借受ケ可成浴湯ヲナサシムルコトヲカムヘシ

第六 兵舎及厩舎ノ境界判然ナラサルモノハ竹垣或ハ

縄張ヲ為シ境界ヲ明ニスヘシ

第七 兵舎ノ窓入口等ニシテ戸障子ナキモノハ紙若クハ

布張ヲナスコトヲ得

第八 寢床用トシテ一名一枚ツ、蓆ヲ用ユヘシ

寢台ハ該兵舎在来品ヲ以テ應用シ在来品ナキ処

ニシテ土間ナルトキハ現在品ヲ以テ簡單ナル板張ヲ

為スコトヲ得

又塲合ニ依ッテハ蓆ノ下ニ敷藁ヲ用ユルコトヲ得

第九 銃架及被服棚ハ竹材及縄等ヲ以テ適宜ニ設

スヘシ

第十 燈火ハ該兵舎在来品ヲ用ヅルナキトキハ蠟燭ヲ

用ニヘシ

第十二、食事分配ノ爲メニハ、該兵舎在来ノ桶糲等ヲ以テ應用シ尙不足スルトキハ借受クヘシ但滞陣中飯盒ノ破損ヲ慮リ可成之ヲ使用セサルコトヲカムヘシ

給養

第十三、炊爨禁ハ成規ニ依ルヘシ止ムヲ得スシテ小部隊毎ニ

炊爨ヲ分ツヲ要スルハ特ニ認可ヲ受クヘシ

第十四、調弁ヲ許シタル副食物及新炭ノ調弁ハ必ス経リ

理官若クハ給養軍曹ヲ以テナサシムヘシ

此調弁員ニハ兵卒ヲ附スルヲ得ルモ各個調弁ハ嚴

禁ス

第十五、給養品ハ新鮮ニシテ滋養アルモノヲ撰ミ且總

督府訓令第一號ノ実行ヲ計ルヘシ

被服

第十五、蚊帳ハ該品着スルマデハ代用蚊帳ヲ以テ應用

スヘシ

第十六、追送毛布ハ可成速ニ取寄スルコトヲ計ルヘシ

第十七、第三装夏服其他轉戰中兵站司令部ハ托

送タルモノモ亦前項ニ同シ

衛生

第十八、兵舎厩舎就中炊爨場ハ日々尤モ清潔ニ

掃除シ且入舎前大掃除ヲ行フヘシ

第十九、被服類ハ屢々洗濯セシメ常に清潔ナルモノヲ

着用セシムルコトヲカムヘシ

第二十、各部隊毎ニ衛生員ヲ置キ掃除其他衛生上

ニ関スル事ヲ司ラシムヘシ

(別紙了)

0257

第三十七、目下彰化ニ於テハ師團ノ南進スル為メノ給養計画ヲ
講シツ、アリ又給養事務稍緒ニ就キ調弁モ亦日ヲ逐フ
テ容易ナラントス然レ氏給與ハ三食ノ内二食ハ土地米又馬
糧ハ大麦三升玄米一升ヲ與ヘツ、アリ此割合ハ尙当分結
クナラン

三、給養ニ係ル一班

第三十八、師團新竹以南ニ運動スルニ至リ給養官ノ働キヲ要
スルモノ特ニ多ク其大甲以南ニ動作セシメハ全ク給養官
ノ働キヲ現ハス秋ナリシ之レ地方調弁ニ拠テ給養ヲ全フシ
得タレバナリ實ニ部内各官ノ精勵ハ師團、僅少ナル時日内ニ
彰化ヲ占領シ得タルニ異テ力アリトス

第三十九、糧食品ノ調弁ハ其地ノ総理^{一市街}保長^{総理}或ハ村長^{下役}
ヲ介シ或ハ名望アル富人又ハ毎戸ニ就テ搜索シ調弁セリ

總理村長等ヲ介シテ調弁セシムル片ハ該人ニ責任ヲ負ハシメ
タリシ此方法ハ此回ノ經過中大ニ好結果ヲ得タルモ最上ノ策
ト認ムル能ハス或ハ逃亡シテ責ヲ果サ、ルコトナシトセサレハナリ故
ニ時トシテハ彼等ニ監視負ヲ附シ或ハ搗精家ニ之ヲ附シ
クルコトアリシ

毎戸搜索モ此回ノ經過中ニ之ヲ用ヒタリ

第四十、既ニ前ニ述フル如ク這回ノ前進ニ就テハ牛馬頭及大肚
街トモ寒村ニシテ重立タル高估ナク且牛馬頭ノ總理ハ事
ニ從フ忠実ナラス大肚街ハ逃亡シテ在ラス如此場合ニ於
テ師團一日分ノ糧食ヲ得ントスルハ實ニ困難ナリシ此困難
ニ際シ調弁ヲ金アシ得タルハ偏ニ給養官ノ尽力奔走ニ
依ルモノト云フヘシ

故ニ此兩街ニ於ケル調弁ハ總理ノ紹介ト毎戸搜索ヲ併用

シ且確實ヲ保スル為メ搗精所ニハ書記一名ツ、ヲ派シ監
守セシメタリシ

第四十一、地方調弁ニ依テ得タル精米ハ其
他ノ夾雜物多ク炊爨
ニ比シ特ニ劣等ナルヲ思ハシム調弁ニ時間ヲ有セサルトキハ
特ニ粗雜米ヲ得ルコト多シトス之レ撰擇シテ調弁スルノ暇ナク
只所用數ヲ得ルニ汲々タレハナリ

然レハ調弁ニ時間ヲ得滞在中ノ如キハ右等夾雜物寡ク且
精白ノ度高キモノヲ得ハシ目下滞在中彰化ニ於テ調弁シ
ツ、アルモノハ大ニ見ルヘキモノアリ

第四十二、調弁ニ就テハ糶米ハ到ル處多少得ラレサルコトナキヲ信

セリ

故ニ前進ニ於テモ若干ノ調弁ヲ集内ニ置クニ至レリ市街地

方ニ在テハ一千人ニ對スル一日分ハ奔走セハ看當日中ニ調
弁シ得ヘキナリ然レ氏此三倍ヲ得シハ二日間即チ調達ヲ
ヲ命シタル翌日ニアラサレハ弁シ得ルコト難シトス
然レ氏副食物ハ到ル處調弁シ得ヘシ但大兵一地ニ駐留
セハ資源忽チ涸ルノ患ナシトセス只轉戦中ニ在テハ各人
既ニ欠乏ヲ覺悟スルト日々新部ニ洛ニ到ルトニ依リ支障ナ
ク經過スルヲ得ルモノ、如シ

馬糧タル大麦ハ今日迄調弁シ得タルコトナシ之ニ反シ小麦
大豆類ハ僅カニ調弁シ得ルヲ常トス故ニ定量ノ幾分ヲ
補フコトアリ然シテ馬ノ保健上賞スヘキニアラサルモ玄米ヲ代
用スルモノトセハ到ル處馬糧ニハ困難セサルナリ

第四十三、各品調弁ノ状況如此ナルニ依リ目下第一、必要品ハ醬
油次キヲ大麦トス故ニ兵站路上追送糧秣ノ順序ハ第一

醬油 第二大 麦 第三 精米 ナランコトヲ要ス 其他 副食物ノ
如キハ 運 搬力ノ 都合ニ 依リテハ 中絶セラルモ可ナリ

此 希望ハ 兵站 監督部一 照會シ 實行シツ、アリ

第四十四、大甲以來 地方 調 査ニ 依リシ 結果トシテ 昼食ニ 高土地

米ヲ 用ユルハ 腐敗ノ 患アリ 故ニ 一食分ハ 必ス 内地米ヲ 與ヘ

クリ又 玄米、ミヲ 以テ 馬糧トスルハ 保健上好マシカラサルヲ

以テ 辛フシテ 大麦三升ヲ、 給與スルヲ 得タリ之レ 監督部 經

列トシテ 土民人夫ヲ 用ヒシ 効果ナリトス

其他 馬糧ノ 給與 定量ニ 就テハ 滞在中ハ 大麦四升トシ 代用

品ヲ 用ユルハ 大麦三升ニ 玄米一升或ハ 大麦三升五合ニ

豆五合ノ 割合ヲ 以テセリ

四、輸送

第四十五、海路 輸送ニ 関シテハ 兵站部ヨリ 報告アラシ 故ニ 爰

陸路運搬ノ一班ヲ報セントス

第四十六、今回、前進中我監督部ノ任シタル運搬ニ係ル經過

ハ既ニ述ハタル如シ

實ニ後遺大甲間ノ運搬ヲ担任シタルハ繁忙ヲ極メタリシ

野戰倉庫ハ糧食品ノ配合ト送出ニ監督部員ハ監督

部經列即土民經列ノ編成及其使用ニ任シタリシ

朝来言語ヲ通セサル土民ヲ使役シ夜晚クモテ其始末ニ掛

リシハ後遺滞陣中ニ於テ尤モ多クナリキ

第四十七、土民經列ハ三十人毎ニ兵卒一名百名ニ下士或ハ上等

兵一名トシ之ヲ一經列トナセリ然レ民敵情ニ依リテハ監視

兵ヲ増減シタルコトアリ時トシテハ特ニ其護衛兵ヲ出シ或ハ

之ニ及シ五十人若クハ百名ニ付兵一名ヲ附シタルコトモアリシ

第四十八、今回、前進中土民人夫ハ到ル必概ニ雇ヒ得タリ其

募集ニ就テモ總理保長等ヲ介スルコト多カリシ

着當日直ニ數十名ヲ雇得ルハ大市街ニ限ルモノ、如シ通
常談示シタル翌日集合ス故ニ之ヲ使役シ約定通り賃
金ヲ拂ハ其翌日ハ更ニ殆ント倍數ヲ得ルヲ常トス而メ
日ヲ経ルニ随ヒ信々多キヲ加フルニ至ル目下大甲以南兵
站司令部ニ於テハ千名内外ヲ雇得ルニ至レリト云フ蓋
シ初日ニ寡キハ賃錢支拂ノ実否ヲ疑ヒ所謂信用セザ
ルニ依ル故ニ一旦約ノ如ク仕拂ヲナセハ其翌日ヨリ集リ来
ルモノハ如シ

第四十九、土人夫募集ニ就テハ我部員又大ニ奔走尽力
リ兵站部ヨリ先行シテ第一ニ人夫ヲ雇フハ師團ニ在リ他
日兵站司令部ニ於テ使用スルニ當リ好結果ヲ得セシメン
為メ恩威並行以テ我ヲ信セシムルハ實ニ第一着ニ在リ之

レカ当任者ノ苦心大ナリ今固ノ前進ニ當リ土民維列好結
果ヲ得師團ヲシテ給養ノ完全ヲ得セシメタルモノ実ニ我
監督部各官ノ功ニ依ルモノ多シトス

第五十、土民人夫ニ就テノ欠点ハ朝早ク来ラサルト雨天日ニハ
一切集マラサル之レナリ実ニ降雨トナレハ如何ニ督促スルモ集
合セズ総理ノ首ヲ賭シテサヘ尙好結果ヲ得ル能ハス又早
朝参集ハ決シテ望ムヘカラストス蓋シ朝支度ノ手間取ル
ニ依ルモノ、如シ然レ氏夜ニ入ルマテ働カシムルコトヲ得ヘシ時ト
シテハ夜十一時頃迄遣ヒシコトアリ尤モ甚シキハ徹夜シタル
コトアリ糧食維列ノ牛馬頭然レ氏如斯使役セハ其翌日集マラサ
ルヲ常トス又暴ク遣ハレ或ハ呵責セラレタリトテ集ラサルコトモア
リシ恰モ子供ヲダマシ遣フカ如シ如何シテモ使役セサレハ給
養ニ差支アリトテ種々ノ手段ヲ用ユルコト多ク実ニ笑ニ堪

ヘサルコト多カリシ然レ氏昨今行厨ヲ用意スルニ至リシハ幸ヒ
ナリ

第五十一、土民人夫中時トシテハ婦人ノ混スルコトアリ既ニ前回報
告シタル如ク中歴以南ニ於テハ婦人ノ働ク者多キヲ見ル
昨今彰化野戦倉庫内ニ於テ土地米ヲ搗精セシムルニ
婦人ノ之ニ従事スルモノ多キヲ見ル

第五十二、土民人夫ノ負力擔力ハ内地人夫ト敢テ異ナラサルモノ、
如シ然レ氏渡台後疲労シタル内地人夫ハ土民ニ比スレハ下
風ニ立タサルヲ得ス土民ハ步行シテ活ニ氣アリ勢アルヲ見ル且
其步行ノ早キ惡路モ石傳ヒニ飛ヒ歩ムヲ内地人夫ノ及
フ処ニアラス喘息遲歩ノ有様見ルモ憫ナリ異日風土ニ慣
レ元氣倍屬活動ノ期アラント希望ニ堪ヘサルナリ
然レ氏内地人夫ノ確實ナルハ取り所ナリ敵ノ近隣ニ或ハ降

一雨ノ時ニ運搬シ得ルハ内地人夫ニ限ル故ニ少シク確實ナル運搬ヲ要スル点ニハ内地人夫ヲ用ヒサルヘカラス

第五十三、土民人夫ハ今後モ高大ニ雇得ルナラシ彰化以南モ亦望ミアルモノ、如シ

五、金銭

第五十四、九月一日現在金ハ四拾八万七千四百五拾九錢ニシテ内硬貨ハ貳拾万六千九百参拾四圓五拾九錢トス

此現在高ヲ以テ今後良狀況ニ經過セハ本年中ハ支ヘ得ラル見込メナリ只銀紙補助貨ノ割合如何ヲ憂慮スルノミ

第五十五、決算ハ本年五月分迄ハ了リ中央金櫃部ヘ向ケ其發送済ミナリ其六七月分モ既ニ各部隊ヨリ提出シ来リアリ目下夫々検査中ナリ

第五十六、兌換紙幣、使用ハ敢ニ望ミナキニアラス到ル處其効用
ト信用トラ説示スレハ使用シ難キニアラス然レモ目下ハ尙直ニ
交換ヲ望ムモノ多シ蓋シ土民相互間ノ行使難キニ由ルモノ、
如シ故ニ方法宜シキヲ得バ後日台灣島ニ於ケル紙幣流布
ノ基礎ヲ得ルニ至ラン而メ本島ニ於ケル紙幣流布ノ基礎
ヲ形ツタルハ實ニ今日ニアラン手

土民ハ戦後堵ニ安セス何事モ我ニ従順ナルカ如シ而メ諸般
ノ仕拂ハ正實ニ之ヲ爲スニ依リ大ニ我ヲ信スルモノ、如シ此
際又紙幣ヲ與ヘ且其効用信用交換等ヲ説示スレハ強テ之
ヲ拒絶スルニアラサルナリ今ヤ實ニ到ル處各部隊ニ於ケル多ク
仕拂ヒアリ又到ル處大兵大ニ到リ土民大ニ威服ス適ニ時
交換所ヲ設ケ紙幣ノ流布ヲ計ルハ實ニ今ニ於テナスヲ適
當ノ時ナリト信ス

第五十七、紙幣交換所ニ関シテハ、曩キニ意見具申ノ末夫々其手續ヲ了シタルハ既ニ前報告ニ悉シタルカ如シ

然レ氏未タ其運ビニ至ラズ、實ニ重キ硬貨ハ運搬力欠乏ニ際シ轉送セサルヘカラス当局者ノ苦心亦大ナリ

第五十八、硬貨ノ轉送ハ出征前既ニ苦心シタリ今ヤ實ニ其実行ノ局ニ當レリ新竹以南ハ鐵道ノ便ナク特ニ困難ヲ極メタリ師團金櫃部負ハ實ニ逐次各兵站司令部ニ分在シ運搬力ヲ得ルニ應シテ前送シタリシ師團彰化ニ入リシ後一週ヲ出テスシテ故障ナク現在金悉皆ヲ運ビ得タルハ實ニ處置宜シキヲ得タルニ依ル

第五十九、目下土民ニ對スル仕拂ニ就テハ既ニ述フル如ク紙幣ノ使用望ミナキニアラサルモ交換所ナキ爲メ主トシテ銀貨ヲ用ヒツ、アリ且野戰師團ノ常トシテ轉戰頻繁日々宿營地

ヲ斐ユル場合ニ於テ僅少時間ニ紙幣ノ効用等ヲ説示ス
ルノ暇ナク加之紙幣ヲ使用セントスルハ勢ヒ物品人夫等
ノ調達意ノ如クナラサルヲ常トス轉戦間最モ速ニ最モ僅
少時ニ調弁セントスル為メ亦止ムヲ得スシテ專ラ銀貨ヲ使
用シツ、アリ

六、雜件

第六十、彰化ニ入ルヤ時候劇妻追送毛布及絨製外套ノ
必要ヲ感セシム蓋寒暑序ヲ失シ暴冷俄熱人ノ健康
ニ害アル多シトス熱病ノ發生如何ハ当局者ノ大ニ憂慮
スル処ナリ

第六十一、新山部長ハ八月十八日榮進ノ報ニ接シ廿一日ヲ以テ
後瀧谷赴任ノ途ニ就カレタリ閣下ノ榮進ト健康ハ吾
人ノ大ニ祝スル処ナリ爾後尚我監督部及屬部員共

21

0270

皆健全ニ彰化ニ入ルヲ得ナリト云フヘシ

0271

臺灣兵站監督部長遠藤慎司報告中抄録

明治廿八年九月十四日於彰化

臺灣海陸運賃ノ比較

但水運ハ支那船ヲ用ユルノ計算ナリ

(臺灣兵站糧餉部附陸軍三等軍使卿隆三郎ノ調査ニ係ルモノ)

口山海	北台		脚返水		基隆
	△17		△20		
	225	△27	242		87
		△50	352		312
		△20			422
		△90	532		602
		△160			
			612		752

基隆ヨリ
彰化マテ
全陸線七円五拾貳錢

台北
新竹間
其他陸送
五円参拾七錢

台北
右境間
其他陸送
四円五拾錢

台北
大甲間
其他陸送
参円参拾錢

右ニヨリテ見レハ基隆ヨリ彰化迄全ク陸線ニヨルモノト海路ニヨルモノトハ殆ント三倍ノ差アリ而シテ陸路ハ運賃ノ高價兩天ノ障

△印数字ハ海送債
其他ハ陸送債
(臺北兵站司令部調ニル)

					新	
					竹	新
				境	後	1.10
		甲	大		1.80	2.90
	港	鹿		△35		
彰化		40	1.50		3.30	4.40

備考

上図ハ米二斗俵鹿包ヲ以テ計算セリ(鹿港彰化間ハ人夫賃實行前故不明ナレバ從來ノ割合ニ應シ四十浅ト見積タリ)大甲ノ部ニ三十浅ヲ加ヘタルハ大甲迄海路ヲ取り大甲ヨリ陸送スル中ハ大甲港ヨリ大甲迄更ニ要スル運賃ナリ

台北
鹿港間
其他陸送
海路
貳円七拾浅

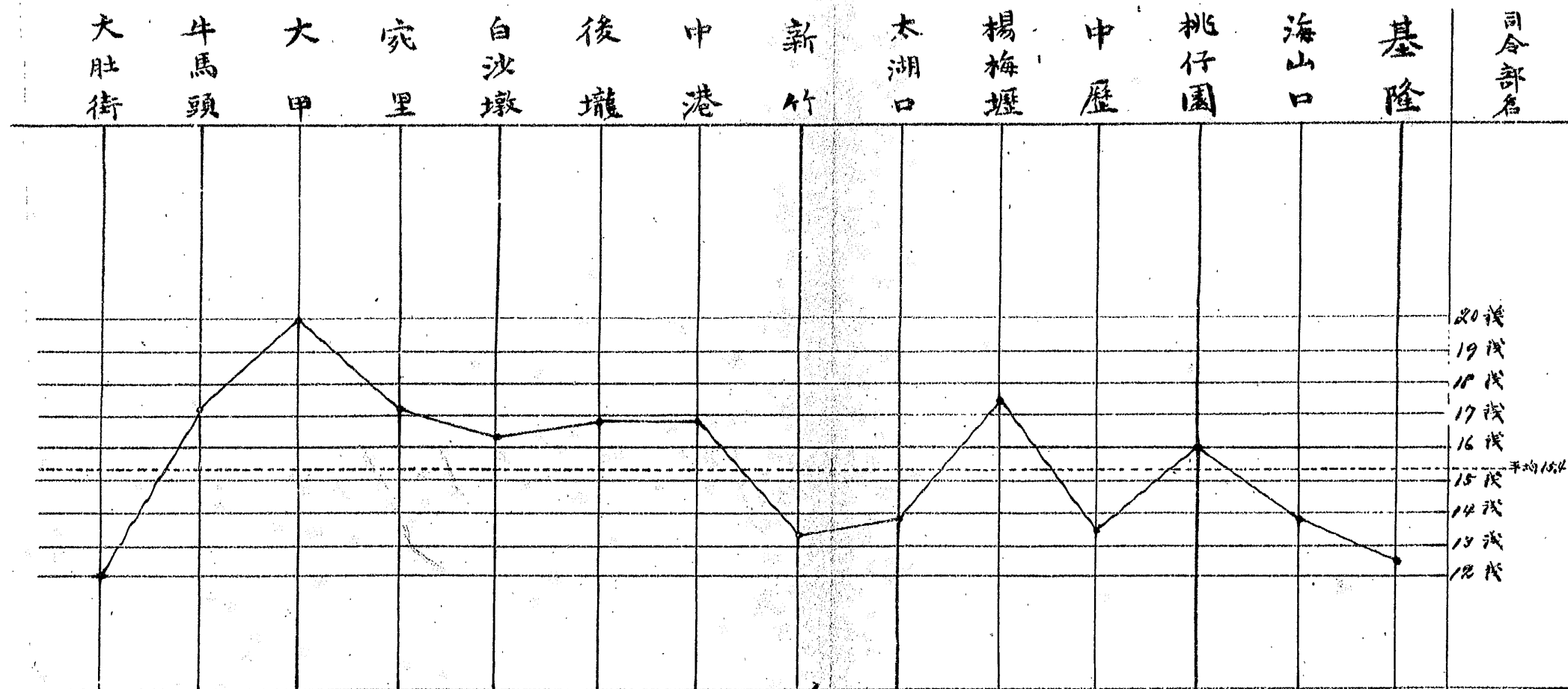
害前送時日ヲ要スルト各司令部所要数ヲ遞減スルノ貨物
濡濕欠損等ノ害アレ氏前送確實ナルノ利アリ海路ハ風
波ノ障害前送時日ノ不定航路ノ危険港灣ノ不良陸
揚ノ困難物品欠損等ノ害アレ氏一時ニ多数ヲ送り得ル
コト運賃ノ廉ナルコト風好ケルハ送達時日ノ短キコト等
ノ利アリ然レ氏陸送ニ此スレハ不確實ナリ以上ノ利害ヲ
比較スレハ海送ハ稍陸送ニ優ルト思考ス
別ニ台北ヨリ大姑隔ニ水運ヲ試ムルニ米壹包五拾錢
ノ運賃ニ當ルト云フ

各兵站司令部 於ケル土人々夫教及賃賃一覽

名	基	水	台	海	桃	中	楊	大	新	中	后
新	隆	返	北	山	仔	歷	梅	湖	竹	港	境
運送賃(二欄色)	米五拾銭	五拾銭	五拾銭	米五拾銭	米五拾銭	米五拾銭	米五拾銭	米五拾銭	米五拾銭	米五拾銭	米五拾銭
八月下旬	米百人	米百人	米百人	米百人	米百人	米百人	米百人	米百人	米百人	米百人	米百人
九月上旬	米百人	米百人	米百人	米百人	米百人	米百人	米百人	米百人	米百人	米百人	米百人
里	四里	四里	四里	四里	四里	四里	四里	四里	四里	四里	四里
教	一里平均	一里平均	一里平均	一里平均	一里平均	一里平均	一里平均	一里平均	一里平均	一里平均	一里平均
一里平均	金拾五銭五厘	金拾五銭五厘	金拾五銭五厘	金拾五銭五厘	金拾五銭五厘	金拾五銭五厘	金拾五銭五厘	金拾五銭五厘	金拾五銭五厘	金拾五銭五厘	金拾五銭五厘

考	備	平均	大肚街	牛馬頭	大甲	宛裡	白沙墩
役ハ除ク 力爲メ多教徴集ノ必要ナク反ソ一日前記人負ヲ集ムルニ過キス雜	里數ハ精密ナル測量ナキヲ以テ確實ナラスト魚氏清里ノ割合及各司令部ニテ 謂フ所ニ拠レルヲ以テ大差ナカルヘシ後テ一里平均ノ如キ精密ナル比較ニ非 スト雖氏其概概ヲ知ルニ於テ大ナル誤ナカラシ 基隆ハ海路直ニ淡水若クハ其他ノ西海岸支倉庫ニ輸送スルヲ以テ陸 送ハ僅ニ平均一日二百梱包ニ止マス千人以上ノ人夫ヲ徴集シ得ヘキモ是	平均 金拾五錢四厘	參拾錢	米 六拾錢	米 (六拾錢)	米 六拾錢	米 七拾錢
			四百人	始メ 七拾人 五百人	七百人 (本安 四百)	五百人 五百人自發隊ヲ助ク	四百人 牛車拾五輛
			四百人	十人	千三百人 本安 四百人	千三百人 牛車拾九輛	續積メ 五百人 牛車拾二輛
			貳里半 金拾五錢	參里半 金拾七錢	參里 (本安) 貳里半 金拾七錢	參里半 金拾七錢	四里拾下 金拾六錢
			陸	陸	陸	陸	陸

各平站司令部土人々夫賃一里平均額高低一覽



20 賃
19 賃
18 賃
17 賃
16 賃
15 賃
14 賃
13 賃
12 賃

摘要

基隆、充分ノ運搬力ヲ供スルニモ水運重キナルヲ以テ微集スルハ火ク金カノ六七令ノ一位毎日微集スルニ過キズ(補役ヲ除ク)

中歷、比レ巨高大ニ差ナキヲ以テ概衡ヲ得ル爲メ等シク一律四十賃ナレバ平均出ルハ大差ヲ見ルハ地巨高ニシテ精進ナラシムハ其差額削減スルハ同地ハ物價高キヲ以テ幾令ノ影響アリ拾銭若シテ拾五賃ニハ低落シ難キ事情アリ

八月中間設セシテ以テ未タ日賃ク低落セシムルニ至ラズ其巨高近キ割合ニ高キハ不得已ナリ

此地以北ニシテ割合ニ安ク巨高ニ差ナキヲ以テ人夫集来メカリシモ昨多敷ヲ得テ運搬力ヲ増セシメテ主等ノ高賃ヲ望ム點ヲ拒ク道與テ得令高同價ナレバ牛車ヲ得テ後ハ人夫ノ教増カセリ

以下兵站司令部ハ開設後一月ヲ経テ近衛師團ニテ使役セシトキは押セタル賃淺ノ例アリテ今日未タ遠キ下落セシメ難キ事情モアリ道々低減スルノ見込

巨高運キ割合ニ前倣兵站司令部ニ比シ安キト其地小村ナルトモ依リ人夫集来スルニシテ運搬力ニシ僅カキ牛車アルアリテ幾令ヲ補フ

宛里大甲ハ道路ノ悪シキト淡流多キニ依リ高シ大甲ハ宛里ト一細色運賃ノ同シキモ巨高水ニシテ近キ爲メ平均ハ高クナレリ且太安ヲ知ハ賃物集積シ人夫ノ所要數中間司令部ノ如ク略制スルモノト此スハカタク是等ニ幾令ノ高價ノ原因ナラン

此地ハ師團ノ糧食級列等運搬力ノ主カニシテ土人ハ補助ニ過キナル有様ニテ土地ノ供レ得ル人夫數ノ三分一位ヲ微集スルニハ特別ニ低落ヲ示セリ

附報

(陸軍省雇負遠藤博愛ノ電報)

彰化ニ於テ岡兵站司令官ト協議ノ上鹿港ニ至リ御指命ノ件調査ノ結果左ノ如シ

本港ハ遠淺ニシテ汽船ノ碇泊困難ナリ支那船ハ安全ナラサルモ碇泊ニ差支ナシ

倉庫ニ撰定スヘキ位置ト碇泊船迄ハ距離約二千米実アルモ解ヲ用ユレハ倉庫ノ下マテ運ビ得ル故處モ不便ヲ感セス解モ澤山アリ

收容スヘキ倉庫ハ二ヶ所アリ三万梱ヲ容ルヘシ又人民ノ家屋ヲ徴スレハ更ニ多数ノ倉庫ニ充ツルヲ得

彰化迄ハ三里余ナレトモ道善シ運搬力ハ目下千人ヲ集メ得将来尚増加ノ見込アリ

彰化ニ野戰倉庫アリ之ヲ引受タルトセハ同地ノ倉庫及運搬力ニモ差支ナキ見込明日彰化ニ至リ野戰倉庫ヲ尋スル見込ナリ

本月三日以來當地ニ陸揚貨物ハ

米 四三〇石

麦 三〇〇石

醬油 八六四樽

酒 六〇樽

罐詰 三三六箱

其他茶、乾物、梅子、及各隊ノ被服、天幕等若干アリ近衛師團ハ煙草、酒ヲ渴望セリ糧秣ハ乏、外地方調弁セリ

爾後小官ノ執ルニ任務御指揮アリクシ

明治廿八年九月十一日午後八時五十五分發
十月一日午後二時五十分着

臺北 遠藤監督部長

鹿港兵站司令部
陸軍省雇員遠藤博愛

混成第四旅團監督部第二回報告

明治廿八年九月五日
於臺北

混成第四旅團監督部長正木 勝次郎

野戰監督長官野田 豁通 殿

人馬

一 畜園ハ中港以東基隆間ノ守備兵ナリシモ後備隊到

着スルニ隨ヒ漸次交代シ海山口基隆間ニ舍營スル

コトナレリ此交代ハ九月十日迄ニ了ル筈而シテ舍營位

置ハ別紙甲号略圖ノ如シ（別紙畧圖ハ畧ス）

一 八月三十一日ニ於ケル畜園人馬ノ現負ハ別紙乙号ノ如シ

糧秣

一 糧秣ハ大連濱ヨリ一月令宇品ヨリ二月令合テ三月

今ヲ交附セラレ總テ基隆ニ於テ陸揚ヲ爲シ之ヲ兵
站糧餉部ノ管理ニ移シ本團ハ各地ノ兵站部ヨリ
給與ヲ受クルコトナセリ

一 台灣島ニ駐軍セル各團隊ニ對シ糧食品給與上ニ関シ
総督府ヨリ訓第一号ヲ以テ特別給與ノコトヲ訓示
スラル故ニ混成旅團糧食品給與上ノ方針ヲ各部隊
長會議席ニ於テ陳述セリ其大要ハ左ノ如シ

目下本團ハ守備隊ノ任務ヲ受ケ新竹基隆間ニ散
在スレハ糧餉部ヨリ副食品ノ分配等ハ爲ス能ハス
故ニ各部隊ニ在テハ魚肉菜蔬等爲シ得ル限りハ
其地方ニ就テ各部隊適宜ニ買辦シ然ルヘシ背後ノ
輸送ニ係ルモノ即チ兵站部糧餉部等ヨリ給與
スル罐詰肉干魚乾物ハ勿論味噌醬油漬物ニ至

ルマテ地方ニ於テ買収シ得ヘキモノハ之ヲ買辦シテ日々ノ
給與ニ充テ後送ノ品ハ補充ヲ受ケサル様スヘシ併ナカラ精
米六合ニ對スル副食品ハ完備シアリ是非トモ地方ノモ
ノヲ使用セヨトノ主意ニアラス之ヲ用ヒスレテ貯藏品ヲ増
ストキハ將來本邦ヨリ輸送ヲ仰ガサル考ナリ特ニ目下ハ
炎熱甚敷健康ヲ保ツニハ糧食品ノ良否最モ衛生
ニ關スルモノナレハ原料ヲ得ラル、限リハ鳥獸肉ノ糞汁ヲ
與ヘラレタシ爰ニ注意ヲ要スルハ代價ノ制限ヲ立テサル
爲メ何程高價ニテモ買収スヘシトノ言ニアラス各部隊
互ニ競争ヲ以テ他ノ地方即チ香港厦門迄モ注
文シテ鳥獸ヲ得ルコトハ禁スルコトナリ軍隊駐在地
ニテ得ラル、モノナレハ代價ノ高低ハ論スルノ時ニアラス其
ハ各部隊經理官法令規則ノ竹藪田ヲ考ヘ適當

判断ヲ以テ将来又ハ他ノ防害トナサル様處置アリ
シテ
尚ホ副食品買収ノ實況ハ詳細ノ報告ヲ望ム
云々

右ノ方針ヲ以テ各部隊各個ニ買辦給與ノコト、ナセシニ
依リ各地兵站部ヨリ受領セシ副食物ノ数量ハ最モ
寡ク定量。約三合ノ二ヲ減シタルモノ、如シ然レハ調味
品即チ味噌醬油ノ如キハ多量ニ受領セシ部隊アリシ
各地ニ於テ買辦セシ重ナル副食品ノ種類及代價ハ
別紙丙号、如シ

馬糧副食品平均ハ少量モ得ル能ハス然テ葉菜ヲ以テ
供給セリ葉菜ノ品質ハ色澤香氣乏シク本邦産山間
水田ノモノニ類ス收穫後永ク堆積セシモノニアラサレハ惡
臭ナク又馬食ニ害アルニアラズ代價ハ概テ左ノ如シ

藁

百斤

金五拾錢

元來臺灣島ハ水牛ヲ以テ耕作ニ使用シ馬匹ノ飼養
ヲ見ル故ニ干州ナシ然レモ永ク駐在ノ目的ヲ以テ干
州ノ產地ヲ撰擇セハ多少收穫シ得ヘキ見込ナリ
臺北ニ於テハ品質佳良ナル食糧色ノ製造人アリ依テ
各部隊脚氣患者及脚氣病ノ徵候アルモノハ豫防ノ
爲メ麥飯ニ代ヘテ之ヲ給與セリ其量ハ一斤ノ四合ノ二
乃至四合ノ三ナリ代價ハ一斤ニ付金八錢ナリ
臺灣米ハ本邦ニ貯藏セル五年越シ位ノ新米ヲ搗精
使用スルモノト醫藥ナリ其味清泊ナリ農家ハ糶ノ終
貯藏スルニ依リ咄嗟ニ徵收ハ無覺束然レモ商賈ニ
就テ買取セハ多少得ラルヘキモノアリ其代價ハ臺北ニ於
テ一担(百四十斤)參内五拾錢乃至四内ノ相場ナリ

飲 水

一 齋園ノ舎營シアル地方ハ各地トモ著シキ不便ノ地ナシ其概畧ヲ述シニ桃仔園、中壠、大湖、口、新竹ハ井水アレハ水質悪シク其量多カラス基隆北ノ如キハ堀抜井ノ噴水アリ其量多ク水質稍可ナリ大姑隔ハ溪水井水トモ多量ニシテ其質善良基隆ハ泉水アルモ其量少ナク多数人負ノ炊爨及ヒ洗濯ニハ稍不便ナリ

燃 料

一 各地トモ部隊調弁トセシニ敢テ差支ナカリシ其主ナル燃料ハ雜木及松材薪ナリ木炭ハ製茶業ヲ為スモノ多キニ依リ隨テ需用ニ差支ナシ基隆屯在ノ部隊ノ外ハ兵站部

ヨリ新炭ノ補給ヲ受ケサリシヲ新炭代價ハ各地高低アレ
 氏概テ左ノ如シ
 新炭 百斤 金五拾錢
 山炭 百斤 金貳圓

運輸

基隆ヨリ台北ヲ經テ新竹ニ至ル鐵道アリ汽車ハ日々
 運行スルモ一回ノ積載量ハ貨車客車各一臺ナレハ
 最モ急最モ少數ノ貨物ニテサレハ之ニ便乗スルヲ得
 不依テ行李荷物ノ外ハ基隆ニ於テ地方ノ船ヲ雇ヒ淡
 水廻ニシテ台北ニ送レリ又鐵道ニ沿ッテ水返脚ニ至ル
 迄ハ人肩ニ依リ是ヨリ河舟ヲ雇ヒ基隆北ニ送ルノ便アリ
 此河舟ハ人及荷トモ一艘ニ付三拾個位ニシテ拾五六艘

外一時ニ使用スルヲ得ル台北以南ノ運送ハ河舟及び
人夫ナリ台北ヨリ水運ニ依リ大姑陷ニ至リタル步兵第
五聯隊第二大隊ノ報告ヲ見ルニ貨物ノ割合ニハ多
数ノ護衛兵ヲ要シ舟子逃亡セシ爲メ此兵ヲシテ操業
セシメ二昼夜半非常ノ困難ヲ以テ目的地ニ達セリ
云々如斯舟子ハ逃亡ヲ圖リ對岸ノ村落ニハ不穩ノ
人民アリ輸送安全ナラサルノミナラス海山口ヨリ上流ハ
水流急ニシテ時間ヲ要スルニ舟挑仔園又ハ中壠ヨリ
陸送スル方安全ナリトス然レモ人民其業ニ安シシ我兵
ヲ懼ルノヲ念ナキノ日ニ至ラハ此ノ水運モ便利ナルモノト
思考ス

苦力即チ人夫ノ内ニ婦人アリ其負擔力男子ニ劣ラズ
共ニ精米貳斗ハ運搬シ得シ男子ノ最モ強キモノハ

精米貳斗以貳個ヲ運搬スルモノアリ遼東山東ノ苦力
ニ比シ力役業ハ稍ク優リシモノ、如シ其債錢ハ各地各
人等シカラサレ氏一日一名參拾錢乃至七拾錢ナリ

貨幣

一貨幣流通ノ概況ハ一般ニ紙幣ヲ忌ミ銀貨ヲ好ム然レ
氏紙幣銀貨ノ交換ハ毎日其請求ニ應スルニ依リ需
用品ノ代價仕拂ニハ紙幣ニテ差支ナシ貨幣ニ對シ土
民ノ好否ヲ聞クニ銀貨ハ大ナル程好愛セラレ紙
幣ハ大ナル程忌避セラル即チ港内銀ヲ好ミ拾円
紙幣ヲ嫌フナリ水返脚地方ノ土民ハ如何ナル原因ナル
ニヤ大黒印ノ港國紙幣ヲ最モ忌ムナリ
一從來臺灣ニ於テ流通スル貨幣ニシテ最モ多キモノハ

キシロ銀貨ヲ以テ第一トス之ニ更ニモ、ハ、イスパニヤ及台湾
銀ナリ台湾銀ニ二種アリ拾銭及貳拾銭ニシテ之ハ先
緒十四年（明治二十一年）未上海及廣東ニ於テ鑄造ス
ト云ヘリ

雜件

一 宿舍ニ充テラレタル家屋ハ多分ハ官有ノ大厦ニシテ床
ナク、燭ナク、煉瓦又ハ土間ナリシニ依リ、地方現在ノ材料即チ
板瓦、太竹等ヲ買収シ、爲シ得ル限り、床ヲ作り、筵又ハ
呉座ヲ敷キ、或ハ粗造ノ竹床ヲ買辦シテ、寢臺トナシ
濕氣ヲ避クルコトニ注意セリ、而メ其作業ハ各部隊附
属ノ軍役夫之ヲ爲セリ

一 特別給與ノ被服品即チ夏帽子、木綿外套、雨覆、フタ

子ル襦袢腹巻木綿製襦袢袴下ハ軍役夫雇馬下
ヲ除キ一般ニ給與セリ
右及報告候也

0290

乙

混成第四旅團人馬現員報告表

明治廿八年八月三十一日(臺北)

官等	官將	官長	上佐	大佐	少佐	中尉	大尉	少尉	下特務曹長	曹長	士軍曹	通訊官	上等兵	兵卒	輸卒	徒馬卒	職工	酒保	軍夫	雇庸人	雇庸獸	人負總計	馬匹總計	備考
司令部	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	表中中尉區画、△印ハ理事曹長區画、△印ハ録事
第五聯隊																								本表負外家徒一名軍夫五十人長以上百七十名
第七聯隊																								在来入院患者將校三名下士以下二百四十名
騎兵中隊																								
砲兵大隊																								
步兵第一連																								
步兵第二連																								
步兵第三連																								
砲兵第一連																								
衛生隊																								
糧食隊																								
野戰病院																								
計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

丙

副食品ノ種類及代價									
品目	代價	品目	代價	品目	代價	品目	代價	品目	代價
鶏	百目 廿拾五匁	砂糖	二斤 拾四匁	鶏	一斤 拾貳匁	魚類	一斤 拾貳匁	鶏	一斤 拾貳匁
家鴨	拾八匁	瓜	五匁	牛	拾貳匁	魚類	一斤 拾貳匁	鶏	一斤 拾貳匁
肉	拾貳匁	芋	四匁	牛	拾貳匁	魚類	一斤 拾貳匁	鶏	一斤 拾貳匁
卵	拾貳匁	葛	四匁	牛	拾貳匁	魚類	一斤 拾貳匁	鶏	一斤 拾貳匁
子	拾貳匁	生	四匁	牛	拾貳匁	魚類	一斤 拾貳匁	鶏	一斤 拾貳匁
葱	七匁五厘	腐	七匁	牛	拾貳匁	魚類	一斤 拾貳匁	鶏	一斤 拾貳匁
甘藷	六匁	瓜	五匁	牛	拾貳匁	魚類	一斤 拾貳匁	鶏	一斤 拾貳匁
馬鈴薯	一斤 五匁	瓜	五匁	牛	拾貳匁	魚類	一斤 拾貳匁	鶏	一斤 拾貳匁

0292

古領地總督部監督部第十一回報告披露

於盛京省金州城

古領地總督部監督部長島田恒榮

野戰監督長官島田恒榮通啟

自明治三十一年三月三日
至明治三十一年三月三十一日
會計經理事務景況

(乙) 糧食事務

三、霖雨、除糧食品、米、麥、各北、状況、如左、
大孤山兵站司令部、報告、據、本年九月、龍王廟、兵站、
司令部、糧食品、前送、途中、十四日、暴風雨、遭遇、在

山子河一龍王廟ヲ去ル約半里ニ於テ船舶轉覆ニタリトノ報
 下ニ大孤山ニ過ルヲ以テ大孤山兵站司令官直ニ人
 手船ニテ其積載品ヲ移シ夜半ニタリテ水深ニ有
 テ索送ノ時ニ精米貳斗入武百弍拾五俵ヲ積載スミテ引
 揚ヲ得テ物ハ漸ク九俵六依ニ過キ水面ニテ之ヲ直ニ開揚シ
 手入ヲ爲シタリト雖モ如何モニリ開水中ニ在リシト運送ニ
 開トテ廢シタリテ爲テ精米ハ老ク腐敗ニ到底全與ミ
 迫ルガレニ至リテ是ヨリ司令官野藏ノ精米四拾叁石五
 斗零貳拾五斗零拾九合六勺九百目モ降雨連日濕氣浸
 潤ニ爲テ老質膨脹シ微ク生ニ腐敗ニ屬シ塩魚モ亦腐
 敗ニ與テ落駄出ニ送レリト至レリト依テ同部ヨリ若屋出
 廣方問合メ来リタルニ精米ハ他ニ使用ノ目的アルヲ以テ之ヲ
 許サズ直ニ当部ニ還送セシノ他品ハ適宜速急ニ事ヲ許可

セリ

西小狐山兵站支部ノ報告ニ據ル連日降雨ノ爲メ十八日午後七
時代然出水ニ村中ノ家屋ハ床上約四寸餘ノ増水ニ一時
ハ悉皆高地ニ引上ケタルモ同奇ハ稍高地ニ在リシヲ以テ
幸ニ浸水ハ免レタリ厩ニ一棟ノ倉庫ハ土床陥落シテ内奇
ニ浸水シ格別ノ損失、大豆、小麦、牛肉罐詰等若干ハ損
害ヲ蒙リタリテ厩ヲ通ニ其手入ニ着手シタルモ腐敗使用
ニ堪ハカリ出目数量ハ未タ詳ナラズ
鳳凰城兵站支部ノ電報ニ據ル劉三店兵站北ハ前日未ノ
降雨ニ據リ家屋ノ床上浸水約四寸尺ニ達セリ翌レク爲ノ
同地ニ赤旗堡附近ニ於ケル倉庫ノ糧秣ハ漸々浸水ニ目
下ノ調査ニ依ル其損傷數ハ精米約千六百石ニ達セリト
爾来同司令部莫ハ全方ヲ盡シテ其脅威ヲ防壓スルモ漸

26

0295

水、腐敗、未クニ或ハ微クモ或ハ臭氣ヲ放チ有リ。僅ク更テ
 物ニモ損害ヲ及ボシ屋ノ腐敗ヲ多クシトス。恐レアリ依
 同司今度ノ調査ニ依リ該官ノ意見ヲ以テ遺尿ノ処置ヲ施ス
 認可シタリ。而シテ係ニ係四兩師原交代ノ為ノ該地ヲ通
 過スル為メハ、給其上文障ヲ以テ十月三十一日迄ヲ維持スル上
 ニ有テハ或ハ不足ヲ生スルヤ計リ難シ此ノ件ニ目下調査中ニアリト
 又同部ヨリ電報アリ曰ク、目下ノ調査ニ據ル當方面ノ程
 社ハ水害ノ為メ損害シ蒙リ、未月中旬頃迄ニ盡シトス。至急
 廻送方ヲ望ムト。依ラ同部ハ其所要品目數量及メ水害
 所出ノ報告方ヲ促シタルニ、昨日迄電アリ、水害ヲ蒙リタル程社
 ハ、電玉届只社司今部ニテ未ク六百六拾五斗、千六百八拾
 賀、大麦百拾石、塩魚、鮓、醬油、ヨリス、松、餅、賀、味噌、松、賀
 漬、物、類、四百八拾、賀、桑、葉、春、松、餅、賀、惣、バ、ン、餅、賀、鹽、餅、松

實補千四拾貫又大郡和堡子兵註司今部ニ大麥參斗入
五百八十石余（内四拾石ハ到府使用ノ見込ナキ他成ニ）又ノ役
用ノ見込一大豆參斗入足供ナリ而シテ解ニ解四兩師團行
軍ニ要スル糧秣ハ多ク在来ノ糧秣ヲ以テ流用準備シタ
ニ未ク確實ノ調査ヲ得ズト爲リ殊リ大狐山兵註司今部ニ
打墮ニテ冰害及損糧食品ノ補充トシテ龍王廟兵註司
今部ハ精米千百七拾石塩魚干魚類計百五拾貫目
乾物計百六拾貫目漬物類千兩四百貫目大麥百廿拾
石ト大郡和堡子兵註司今部ハ大麥計百石前送ノ事ヲ
照會スルト同時ニ又此ノ補充トシテ榎樹地倉庫ナリ在来目数
量ヲ大狐山兵註司今部ニ海送セシメリ
精米千兩百石塩魚干魚類類類六百貫目漬物類千
四百貫目大麥百石前送

明治二十八年八月三十日 收支調査表

受入之部

金 六百六拾貳萬五千貳百九拾貳圓四錢四厘

附 譯

金	高	事	項
三、一〇、二一〇	八、二	前月迄受入員報告金	
五、一、一〇二	七、四三	那須振替金 金州三、二六、一四三、三三六 振替二、八八、八七五	
一、〇、〇〇〇	〇、〇〇	泰平氏取違部前渡金トシテ作一師集監付金トシテ移集津本前通知ノ本	
四、六、一三	一、四〇	前渡過前金各所受正振替金込納金	
六、六、三九	三、五九	金州振替司金前其他ノ金入金トシテ受入金	

補出之部

金貳百八萬計千貳百五拾八圓四拾九錢尾座

内 譯

金 萬

事

項

一、七三一、七九二

前句通掛並高敷普濟、公

二、六二、六二四

野新野村長官、今令所解四師出、及自移算、公

一、三、一四、

消成民政部任費、上、解一庫世諸部彩算、地訂並我、公

八、六、八、二、四、七

福謝迄、其起同、今、前渡金、外、十、康、新、萬

九、三、四、

吉、金、提、解、三、六、十、直、候、仁、州、萬

錢 萬 之 奇

金百五拾四萬參千貳拾五圓六拾五錢尾座

内 譯

金 萬

事

項

一、二〇、五四二	五七八	現金
一三、三〇八	三四五	必東縣英詩司今部預金
一九一、七一	五五二	大抵止日新
二一、八三三	七二七	鳳凰帳日新
二一、六六二	三三〇	學問師東金博壽日新
一八三	三〇一	管手能

0301